

令和元年度 第3回岡山市子ども・子育て会議 (議事録/要約)

日時：令和元年11月18日(月)午後1時30分～午後3時40分

場所：岡山市勤労者福祉センター5階体育集会室

開会

- ・局長挨拶
- ・会長挨拶
- ・成立確認・・・委員20名中19名出席にて定足数を充足し、成立を確認。

議事

議事進行は会長

(1) 第二期岡山市子ども・子育て支援事業計画(素案)について

こども企画総務課長 [計画とパブリックコメントについて資料に沿って説明]

会長 新しく委員になられた方もいらっしゃるので、整理しておく。岡山市子ども・子育て支援事業計画というものと、岡山市子ども・子育て支援プランというものの2つがある。まず計画をつくって、これに基づいて支援プランをつくる。どちらも第二期なので、令和2年度から令和6年度、つまり来年度スタートということで、今年度中にこの2つを完成させる。そのためのご意見をこの場でお聞きをしている。

まず、この支援事業計画について、前回皆様のご意見を伺った。その後、市が10月8日から11月7日までの1カ月間パブリックコメントを行い、その結果である市民の皆様の意見を今ご報告いただいた。それが議題(1)での話題。

次に、(2)の議題として、子ども・子育て支援プラン。こちらは本日皆様のご意見を伺い、その後、パブリックコメントを実施する段取りになる。

委員 子ども・子育て支援事業計画の13ページ(6)の①。「中学校区ごとに1園ずつ公立園を整備」という後に、「その他の岡山市の市立施設は民営化や廃止を含めて検討します。」という表現になっている。「統廃合」ではなく「廃止」になった理由と、またそれによって今後、こども園整備等で変わり得る具体的な相違点があれば教えてほしい。

こども園推進課長 平成28年3月に岡山市が策定した「施設配置の最適化における公立施設の整備等の進め方について」の表記に揃えさせていただいた。考え方について大きく変更を意図して文言を整理したということではない。

委員 36、37ページに岡山市全域の量の見込みと確保方策があつて、1、2歳の施設をたくさんつくろうとされているが、1、2歳が増えれば、付随して3歳から5歳も増えるのでないか。

こども園推進課長 特に保育の受け皿が不足している1、2、3歳あたりの枠の整備は大きな課題。1歳、2歳あたりについては通常の認可保育所以外に小規模保育事業ということで、低年齢の受け皿の確保を別に掲げている。

担当局長 幼稚園からこども園へ移行することでも、低年齢のところが充実させていけると期待している。

いずれにしても、全体の数字を見ながら、保育のニーズなのか、幼稚園のニーズなのか、それも無償化もあつて動くと思うので、全体の枠として満たす計画をつくりながら、実際の募集、それからこども園の整備についてはしっかりと定員を考えていきたいと思っている。

委員 私立の保育園では複数の保育園が定員を割っている。保育士の確保ができていないからだ。それで、受け皿だけ確保しても、机上の数字にすぎない。保育士の量の確保がどのくらいできるのかを算出してほしい。

保育・幼児教育課長 今、施設の受け皿を800人ずつ3年間で増やしていく計画で、それに必要な保育士の数は、児童6.4人に1人ぐらいは保育士が必要ということで、800人を6.4人で割った125人の保育士が市全体として必要だと計算上は出てくる。何人必要ということは言えるが、結局机上の数字に過ぎず、どういう形でしたら何人増えるかというのは難しいのが今の状況。

委員 公立の幼稚園での延長保育、預かり保育の実施状況、それから今後の予定等について教えてほしい。

幼保運営課長 現在、公立の幼稚園では、午後の預かりは実施していない。認定こども園12園では午後の預かりを実施している。そして、1号の子どもの午後の預かりは認定こども園の整備で進めていくというのが市の方針。

委員 パブリックコメントの主な意見を具体的に教えてほしい。

こども企画総務課長 パブリックコメントの中にたくさん出てきたのは、こども園に移

行することに対する様々なご意見。公立園を残してほしいであるとか、小学校への連携であるとか、こども園に移行することで、今まで行われている幼稚園での教育と保育園が一緒になるのがうまくいくのか不安といったこともたくさん出ていた。それから、中には、自分の学区の保育園、幼稚園を残してほしいという意見もたくさん出ていた。

いただいた意見については、ただいま集計中であり、まとめて、ホームページ上で回答する予定。

こども園推進課長 　少しだけ補足として、比較的多かったものについてご紹介をさせていただく。数が多かったのは、やはり定員設定のところの部分で、こども園への移行に関して、保育だけでなく、1号についてもしっかり見て定員の設定をしてほしいというご意見、あと、地域の施設に入りたいという保護者の方のご意見、また、転勤などによって年度途中での入園の対応ができるような定員にしてほしいというご意見があった。それから、実際こども園の中での教育・保育の内容についてのご意見であるとか、こども園の施設整備については、園庭の広さの話や交通安全の話などについてのご意見もいただいている。

委員 　平成28年3月策定の公立の適正配置に係る計画による、民と公の役割分担は非常に大切だが、支援事業計画などのどこに絡むのか。

担当局長 　平成28年3月に策定した「施設配置の最適化における公立施設の整備等の進め方について」がこども園整備のバイブルになっている。この中で、公立の認定こども園は、30の提供区域ごとに1園整備することとしていたが、これを36（中学校区ごとに1園）に変更するというのを、今年度、計画を少し改定するなり書きかえるなりをして、次の年からの新しい指針に基づいて進めていくことになる。

委員 　中学校区に公立園はひとつとなると、中学校区の右と左にある場合、真ん中でできればいいが、どちらかになってしまうと、もう一方の保護者の方、子どもさんは遠くて大変だと思う。そういったことは考慮いただけるか。

こども園推進課長 　今まで並列区で決められていないところや、今回、30から36ということで、中学校区で増えることになった地域で公立の園が複数ある中学校区については、新たな視点で基準をつくりながら、市としての基準の中で候補園を決める作業を現在進めている。中間地点にというご意見もいただいて、本当にそうだ

とは思うが、なかなか土地の取得等も含めて思いどおりにならない。

また、これまで公立のこども園整備については、基本的に既存の土地や建物について使えるものは有効活用していくという大原則がある。今回、選定基準の中で、例えばどうしてもその敷地の中では工事ができないとか、道が狭くて工事車両が入れないとか、そういった特殊な事情でどうしてもできないときに限り、2つを1つにする条件でどこか別のところでという方針を示しているが、何も無い状態で、真ん中というのは難しい状況。今、いろいろな現場を見させていただくなど、基礎情報の収集をしているところなので、またそのあたりがはっきりした時点で各地域に入らせていただいて、市としての考え方を説明させていただきたいと思っている。

委員 1歳、2歳では入れないので、0歳から預けたくないけれど預けるという傾向がある。1歳、2歳の受け皿でもいつでも入れれば、できるだけ長く子どもを手元に置いてから預けるという形がとれる。

委員 3歳児保育の進捗状況をききたい。また、3年保育を目指していたのをやめた理由も知りたい。

幼保運営課長 まず、幼稚園の3歳児教育の状況について。令和3年度以降に認定こども園への移行が見込まれていて前倒しとしてやろうというところ、それから中学校区で、現在3歳児教育を実施している幼稚園のない中学校区、10園ぐらいを合わせて検討を行っている。PTAの方、保護者の方、町内の方、園長先生、候補の幼稚園のある近辺の私立の特に幼稚園、認定こども園の子どもの受け入れ状況、学区の今度3歳児教育の対象になる子どもの数、そういったものを総合的に検討してみて、10園全部というのは難しいが、そのうちで幾らか選定させていただき、今、最終的に調整をしているところ。近日中に、ホームページ等でお伝えはしたいと思っている。

もうひとつ、3歳児教育についての経緯だが、これがなかなか古いもので、我々もちょっとわかり切らないところがある。そもそも平成3年ぐらい、文科省からも3年保育を推進していく計画があって、岡山市のPTAさんからの要望等もあり、研究したり、試行したりというような形で、平成13年度から岡山市の公立幼稚園では3歳児教育が、まず最初に5園、それから次の年に5園、また2園とかというような形で徐々に増やして、平成19年度をもって（こども園になっている

ところも含まれるが) 今現在の姿になっている。当時は、保育園等の状況も今とは異なっており、3歳児の受け皿としてというような考え方ではなくて進められていたと推測される。そういうことで、公立としてはとりあえずこれだけの園でやっていこうということになったのではないかと思う。平成27年度からこども園の整備が始まったわけだが、その時点ではもう保育に対するニーズがかなり大きくなっているので、こども園を整備することによって3歳児教育を実施していこうという方針になって今やっていると考えている。

会長 令和2年度から、3歳児教育は始めていくと考えてよいか。

幼保運営課長 はい。来年度の4月から、5・6園になるかと思うが、新たに実施したいと思う。無償化が始まったばかりで動向がわからないので、今回候補が上がっていたけども見送らせていただいた地域については様子を見ながら、次年度の実施について引き続き検討していく。

委員 こども園を進めるに当たってのバイブルということがあったが、民営化や廃止に対するバイブルというのはどこで確認できるのか。というのは、連合保護者会で、こども園にならない園は民営化や廃止になると話をしたら、ほとんどの対象園が知らなかった。ホームページや新聞で知らせているから周知しているではなく、対象園に対しては、説明をお願いしたい。

こども園推進課長 「施設配置の最適化における公立施設の整備等の進め方について」は、市のホームページに掲載している。また、民営化の対象になる園への説明については、公立の36園以外が全部対象ではあるが、全部それを同じようなタイミングで進められるものではないと思っており、比較的進めやすいところから優先的にお話をさせていただこうと考えている。

委員 子どもが小さいときは職場近隣に預け、4歳・5歳になると小学校区の園に転園しやすいような制度があると嬉しい。

(2) 岡山市子ども・子育て支援プラン(素案)について

こども企画総務課長 [資料に沿って説明]

委員 虐待や貧困の問題というのは社会全体、地域での取り組みというのが非常に大切。子どもたちが通っている幼稚園、保育園、こども園や小学校は、子どもたちから虐待の問題や、貧困による困難さが、生活の中の視点で浮き彫りになることも多いと思う。そういった施設の中でどういうふうに貧困や虐待の問題に機能し

ていける施設となっていけるのかというところを、公が中心となって考え、よりよい方策をたてていただきたい。

委員 放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携について、放課後児童クラブが市の直轄からふれあい公社にという話があるが、連携ができていくのか。

放課後担当課長 今後、ふれあい公社へ一部、市立クラブということで移行する中で、当然ながら、学校でやっている放課後子ども教室にもクラブのお子さんがおられる。今現在でも、支援員の方にある程度かかわっていただいているところがあるので、今後ともその連携が続くように調整をかけていこうと思う。

会長 (3) その他として、事務局からなにかあるか。

こども園推進課 [地域型保育事業の運営事業者変更による利用定員の設定について報告]

会長 委員の皆様から、なにかあるか。

委員 ことばの教室について、以前は幼稚園のお子さんだけが対象だったが、すべてのお子さんが対象になった。対象が広がったのに支援体制はかわらず、待機のままになっている。そういった支援の必要な方に対して、保護者、親御さん、市民サービスの上でさらなる向上を検討していただきたい。

委員 民営化に関して保育園を利用したい保護者の意見をどのように聞いているのか教えてほしい。また、今まで民営化に対してどのような陳情が出されたかと、それに対してどういう議論がされているのかを教えてほしい。

こども園推進課長 どの園をいつ民営化するかはなかなか進んでいない状況があり、具体的な園についてお聞きいただいても、ここはまだ計画が未定ですというようなお答えをするのだが、動きがあるものについてはいろんな地域の方々も含めてご報告をしながら進めているので、ご質問があれば、その地域の方の状況に応じてお話させていただいている。

あと、民営化を反対することについての陳情や要望については、幾つかの地域のほうから、民営化反対というよりは、公立園を存続してほしいという趣旨での要望をいただいているケースがあるが、ここについては同じように市議会にも陳情をされているということもあって、岡山市については先ほどからの市の方針に沿った説明をさせていただきながら、ご理解をいただけるように努めている。

委員 幼稚園の保護者のほとんどが、手元でしっかり育てながら子どもの成長を見守って、集団に入れるときに入れたいという思いがあるので、今後とも引き続き3歳児教育を充実させていただきたい。そして、無償化の恩恵が全ての家庭の子どもに受けられるといいなと思う。

委員 公立保育園は福祉の施設だと思うので、福祉を後退させないためにも公立保育園は残してほしい。

会長 他にあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

閉会